

北大竹遺跡―儀礼の場―

近年、北大竹遺跡の発掘調査で6世紀中ごろから7世紀中ごろの遺物が集中した地点が3カ所確認されました。この遺構は何らかの儀礼を執り行ったところか、儀礼に使った道具を片付けて置いたところではないかと考えられています。

この遺跡は大字若小玉・藤原町に所在し、古墳時代から平安時代までの集落を中心とする複合遺跡です。また、古墳跡約50基も確認されており、本遺跡を中心として、墳丘が現存する八幡山古墳と地蔵塚古墳を含む若小玉古墳群が展開しています。

今回紹介する遺物が集中した地点は、令和元年から令和2年にかけて行われた公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の調査(18次調査)によって発見されま

した。その地点からは、土師器やさまざまな器種の須恵器、玉類、石製品、石製模造品、鉄鏃・鉄製模造品などの金属製品が数多く発見されています。日常生活では使われない土器が幾重にも折り重なって確認されました。同時に発見された特筆すべき遺物として、子持勾玉、武器や農具を模した鉄製模造品、通常古墳に副葬される環頭大刀柄頭が挙げられます。特に子持勾玉は、一つの遺跡から確認された個数としては全国で最も多い45個が発見されました。子持勾玉とは勾玉(親)に小型の勾玉(子)を表す突起が複数表現される形状のものです。これは装身具として使用されたものではなく、多産や豊穣を願って作られた儀礼の道具と言われています。

この遺跡の「儀礼の場」は、同じ時期に盛行する埼玉古墳群や、若小玉古墳群を築いた人々が関わって、祈りの儀式を執り行ったのではないかと考えられます。

現在、郷土博物館常設展示室「古代の行田」で、15個の子持勾玉の実物資料と、出土した土師器・須恵器や出土状況の写真などを展示しています。古墳時代の祈りの様子をぜひご覧ください。

(郷土博物館 篠田泰輔)



北大竹遺跡出土子持勾玉
(埼玉県教育委員会提供)

特別整理期間(蔵書点検)に伴う休館

図書館で所蔵している資料があるべき場所に収まっているかを確認し、行方不明などの資料がないか点検する作業や、通常の館内整理日にはできない大掛かりな書架の整理を実施するため、定例休館日を含めた次の期間中は休館します。返却資料がある場合には、ブックポストをご利用ください。

▶特別整理期間 9月29日(月)～10月3日(金)

ぎょうだ電子図書館について

ぎょうだ電子図書館(<https://web.d-library.jp/gyoda/>)蔵書点検中は、図書館の利用はできませんが、ぎょうだ電子図書館は利用できます。市内在住で、図書館利用カードをお持ちの方はすぐに利用できます。「利用者ID」には利用カード表面のバーコードの下に書かれている利用者番号7桁(ハイフン不要)を入力。「パスワード」は、最初に利用する時に仮パスワード(ご自分の生年月日8桁)を入力してログインできます。



ぎょうだ電子図書館ホームページ

ぎょうだ電子図書館 読み放題コンテンツについて

ぎょうだ電子図書館の読み放題コンテンツ40点は9月30日(火)をもって読むことがなくなります。なお、10月1日(水)から新しい読み放題コンテンツを用意する予定です。

英語であそぼう Let's Play In English!

▶日時 9月21日(日)午前11時から
▶場所 図書館おはなしのへや
▶内容 英語の歌遊びや絵本の読み聞かせ
▶対象 幼児および小学生
▶その他 申し込み不要

来て! 見て!

図書館

と し ょ かん

開館時間

午前9時～午後7時

休館日

9月1日(月)・2日(火)・8日(月)・16日(火)・
22日(月)・29日(月)・30日(火)
10月1日(水)～3日(金)・6日(月)・14日(火)

※休館日の図書の返却はブックポストをご利用ください。

市立図書館

佐間3-24-7(「みらい」内)

TEL:556-4227

FAX:555-3770



食を通じて地域と関わりつながつた思い

丸橋 悦子さん(西新町・80歳)

ころに介護支援専門員(ケアマネジャー)の資格を取得した他、民生委員・児童委員として、それまで以上に行田市の共生社会実現に尽力してきました。

今月はいきいきサロンの設立などに貢献した丸橋悦子さんを紹介します。丸橋さんは神奈川県平塚市出身で、27歳のころ、出産をきっかけに行田市へ転入しました。母がさまざまな工夫を凝らした料理を作ってくれたことから、「自分の子どもにもしてあげたい」との思いと家族の健康を考え、管理栄養士の資格を取得しました。当時40歳を過ぎていましたが、「勉強に年齢は関係ない」と家事や子育ての合い間に時間を見つけて勉強したそうです。資格取得後は、幼稚園に通園する子どもたちの食育や、高齢者を対象とした栄養講座や食生活の指導などを行ってきました。そして60歳の

70歳のころには、近所の有志が集まり、閉じこもりがちな高齢者の交流の場を作ろうと、「西新町いきいきサロン」を設立。その後、市が行う出前講座で、介護予防のために重りを付けて行う体操「100歳体操」を知り、いきいきサロンで週1回実施してきました。「一人ではなかなか続けられない体操も皆となら」という高齢者も多く、毎回10人以上が参加。体操だけでなく、「10分間の休憩や水分補給、おやつの時間には楽しいおしゃべりにも花が咲きます」と丸橋さんは笑顔で話してくれました。こうした活動の他、いきいきサロンでのボランティア活動が評価され、昨年埼玉県から「住みよい地域社会の実現のため実践活動している団体」を表彰するシラコバト賞を受賞しました。

これからについて丸橋さんは、「いきいきサロンの平均年齢が75歳以上なので、若い方にも参加してもらい、バトンをつないで長く続いてほしい」と語ります。丸橋さんが続けてきたいきいきサロンが今後も高齢者の支え合いの拠り所として、安心して暮らすことのできる地域を作り続けていくことでしょ。

俳句壇

ぎょうだ はいだん

俳句応募方法

一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。※毎月末日必着
なお、「一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

桑の実も立派なおやつ戦争つ子

持田 中野 華泉

【句評】昭和30年代までの田舎の子は口の回りを紫色に染めて桑の実を食べた。当時は結構甘かったような記憶があるが、甘味食品の整っている現代では食べる気にもならない。食料不足時代を生きた作者の主張に共感できる人は既に少数派となってしまった。しかし、ネット社会の中で貴重な体験をしてきた人たちが残っていることも忘れてはならない。

せせらぎの闇をぬらして初堂

緑町 松林 真弓

【句評】闇に浮く螢火は恋の逢瀬にしてはなんとも地味で切ない。「ゆるやかに着てひとと逢ふ螢の夜 信子」という名句があるが、螢を詠んだ句には神秘的で艶やかな句が多い。掲句も一句の調べが詩情豊かで恋螢の切なさを見事に詠嘆している。初螢としたことによって青白い螢火が桃色にさえ見えてきそうである。

邂逅の仏縁を謝す蓮の花

渡柳 大西 道子

【句評】邂逅とは思いがけず巡り合ったことである。蓮は仏界の花というイメージがあり、作者はこの出会いはきつと仏さまのお引き合わせかもしれないと感謝した一句である。人間関係が希薄になりつつある現代社会の中で、久方ぶりの出合いを喜び感謝する作者の真情に安堵感を覚える。古代蓮の里あたりの一票であろうか。

バッタの子追われ追われて草になる

小見 三宅 典之

沢水に光尾を引く螢の夜

忍 大澤 由子

花牡丹ゆれて視線を遊ばせり

長野 牧 努

睡蓮に雨来て白し沼の昼

棚田町 川鍋 幽覚

入道雲大円墳の上に立つ

藤原町 斎藤雄次郎

独り酒閣にひっそり遠花火

佐間 西岡 備中

山里に響く鈴の音青嵐

忍 松岡 弘子

(三沢一水選評)

